

学校における働き方改革の達成と「社会に開かれた教育課程」の実現

提案テーマ

コロナ禍においてもできる、地域を巻き込んでできる「キャリア教育」の展開



宮崎・えびの市立飯野中学校

校長 黒葛原 武

学校における働き方改革の達成と「社会に開かれた教育課程」の実現

宮崎県教育研究連合会
えびの市立飯野中学校
校長 黒葛原 武

提案テーマ

コロナ禍においてもできる、地域を巻き込んでできる「キャリア教育」の展開

1 本校の概要

本校があるえびの市は、鹿児島県と熊本県の県境に位置する。市の南部には霧島山とえびの高原の「霧島屋久国立公園」、北部には「矢岳高原」があり、美しい自然と温泉が楽しめる山間地域である。また、九州自動車道と宮崎自動車道の分岐点であり、「えびのインターチェンジ」から「道の駅えびの」に自由に行き来ができ、県内外から多くの観光客が往来する観光地となっている。

本校は、えびの市の東部に位置し、隣接する小林市との市境にある。赤字路線として挙げられている「JR 吉都線」のえびの飯野駅が近くにあり、市内外からアクセスしやすい場所に位置しており、自衛隊のV L F基地や駐屯地もあり、山間部は熊本県との県境となっている。さらに、校区に目を向けると、霧島連山から流れ出る水に恵まれ、寒暖差から全国屈指の米所となっている。県外にアクセスしやすい環境にあることから、鹿児島県や熊本県に通勤している保護者や都会からUターンする方いる。PTA活動等への参加の状況は、保護者の多くは本校の卒業生であり、学校への誇りと愛着があり、学校への協力体制も極めて強固なものである。

本校は昭和22年に開校し、開校76年を迎える伝統ある学校である。市内4校ある中学校の中では最も規模が大きく、あらゆる面で市の中心的存在となっている。

【えびの市の概要】（市ホームページより）

人口：16,905人
平均気温：16.2度
最高気温：39.4度
最低気温：マイナス5.3度
小学校：5校（888人）
中学校：4校（455人）



(1) 本年度の学級編成

□1年：2学級：58名 □2年：3学級：67名 □3年：2学級：47名

※ えびの市は30人学級編成を独自にとっており、市費常勤講師が雇用される。

□自閉症情緒学級：1学級：3名 □通級教室：1学級

□職員数：校長1名 教頭1名 主幹教諭1名 指導教諭1名 教諭14名 養護教諭1名
事務主査1名 市雇用常勤講師1名 市事務補助1名 市用務員1名

〔スクールカウンセラー（県拠点配置1）、スクールソーシャルワーカー（市配置1）、ALT 1（市雇用）〕

(2) 生徒の状況等

① 生活面について

- 明るく素直で、人懐こい性格の生徒が多い。
- 部活動やその他の活動に熱心に取り組み、部活動では県・九州・全国レベルの成績を収める生徒が数多くいる。
- 校区内に自衛隊通信基地やえびの駐屯地があり、市外・県外からの転入が多い。
- 数年前は生徒指導困難校として、問題行動が山積されたが、ここ数年は大きな問題行動はなく、生徒は落ち着いて生活している。
- 集団に適応できず不登校・不登校傾向で欠席する生徒や、別室で学習を希望する生徒がいるが、教員のサポートにより、前向きに生活できるようになっている生徒もいる。

② 学習面について

- 近隣の都城市や宮崎市、また鹿児島県の進学校に進学する生徒も多くおり、学習能力が高く、各種学力調査等でも優秀な成績を収める生徒もいる一方で、学習面で困難さを抱える生徒もおり、二極化は顕著な状況である。
- 山間地であり、学習塾は数も少なく、学校での学習がメインとなっている。
- 市全体で英語教育に力を入れており、英語については各種調査等で県内でも上位の成績を収め、英語暗唱・弁論大会等ではここ数年の中でも全国大会や県大会に出場する生徒が輩出されている。
- 市唯一の県立高校である県立飯野高等学校も数年前から存続をかけ、市全体で「小中高一貫教育」に取り組んでいる。

③ 保護者・地域の状況について

- 保護者の多くは本校の卒業生であり、PTA活動をはじめ学校の教育活動への関心が高く、各種行事等においても熱心な協力が得られる。
- 市全体でコミュニティスクール制度を導入しており、学校運営協議会において学校のあらゆる行事等について協議がなされ、地域の方々の学校への協力も大変盛んである。
- 本校から歩いて行ける距離に県立飯野高等学校及びえびの市立飯野小学校があり、「小中高一貫教育」もとても取り組みやすい立地環境となっている。

1 えびの市の学校教育ビジョン

えびの市教育基本方針

本市の教育は、教育基本法の理念及び宮崎県教育基本方針にのっとり、人間尊重の精神を基調として、「たくましいからだ、豊かな心、すぐれた知性」をそなえ、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれ、新しい時代を担って行く気概をもち、心身ともに調和のとれた人間の育成を目指します。

このため、えびの市民憲章のもと、生涯にわたって適切な学習が進められるよう、学校教育、社会教育、生涯スポーツの充実振興を図るとともに、その有機的な連携を密にして、生涯学習の推進に努めます。

ふるさと「えびの」に誇りをもち、
未来を切り拓く「人財」の育成

3つの挑戦

《一人一人が輝く、特色ある学校の創造》

学力向上への挑戦

- ・基礎・基本の徹底
- ・英語教育の充実
- ・30人学級事業の充実
- ・教職員の資質向上
- ・特別支援教育の充実
- ・ICTの活用

心の教育への挑戦

- ・豊かな情操と規範意識の育成
- ・いのちを大切にすることを大切にする教育の推進
- ・豊かな情操と規範意識の育成
- ・コミュニケーション力の育成
- ・生徒指導の充実

健康教育への挑戦

- ・体育・部活動指導の充実
- ・防災・安全教育の推進
- ・歯科保健指導の充実
- ・食に関する指導の充実
- ・学校給食の充実

人権・同和教育の推進

幼保・小・中・高の一貫教育の推進

ふるさと教育・キャリア教育の推進

学校・家庭・地域の連携

(PTA活動、学校運営協議会、地域人材の活用等)

えびの市立飯野中学校

学校経営スローガン
志を高く ～常に「飯野魂」(おそれない心 ねばりぬく心 いたわる心)を胸に～

学校の教育目標
「徹底した学力向上」
「礼節を知る」
「体力・競技力の向上」

目指す生徒像
「志(目標)をもつ生徒」
「あいさつができる生徒」
「元気な生徒」

目指す学校像
「みんなが居心地のよい楽しい学校」



学校経営ビジョン
「持続可能な社会の創い手」となる生徒の育成を目標に掲げ、家庭・地域と連携しながら、「飯野中でしか味わえない教育」を展開する学校を目指す。

全職員で共通理解・共通実践

- 生徒との関わりを大切にします。
- チーム「飯野中」として組織で取り組みます。
- 教師としての資質や指導力の向上に努めます。

重点取組事項

学力の向上

- 「わかる」「できる」授業の充実
- 「小中高一貫教育」の充実
- キャリア教育・ふるさと教育の充実
- ICT教育の推進

豊かな心の育成

- あいさつの励行(語先後礼)
- 人権・同和教育の充実
- SOS の出し方教育の研究
- ピア・サポート活動の充実
- 教育相談の充実
- 基本的な生活習慣の徹底

健康・体力の増進

- 体育・健康教育の充実
- むし歯〇の推進
- 食育の充実
- 防災教育の充実
- 感染症等の予防対策の徹底



4 提案趣旨

本校は、令和3年度・4年度は「Think Globally, Act Locally」（広い視野をもって、まずは足下から）をキャッチフレーズに、「持続可能な社会の創り手となる」生徒の育成を目標に掲げ、隣接する県立飯野高等学校を含め、地域や家庭と連携しながら、「飯野中学校でしか味わえない教育」を展開する学校を目指し日々の教育活動に取り組んだ。

昨年までの2年間は、「scrap and renovate」という考えの下、全職員で日々議論を重ねながら、必要のない行事や取組は徹底的にスクラップし、必要なものに新たな視点を加えながら充実させるなど、カリキュラムマネジメントに取り組み、これまでの取組の更なる充実を図った。

中でも『えびの学』（地域資源を生かした「総合的な学習の時間」）を中心とする「キャリア教育」については、働き方改革の視点も踏まえ、コロナ禍においてもできる、また地域人材や専門家も活用しながら地域を巻き込んでできる取組を開発し、展開している。

市内外へ積極的に発信し、文部科学大臣表彰を受賞した。

5 提案内容

キャリア教育プログラムの開発

(1) 「えびのお仕事図鑑制作プロジェクト」

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実施できなかった職場体験学習に代わって、「えびのお仕事図鑑制作プロジェクト」に取り組んだ。地域で活躍する16名の講師を招聘して、生徒自らがインタビュー・撮影・原稿作成を、GIGAスクール構想で一人一台配付されたタブレットを上手に使って行い、生徒自らが制作した。

完成した図鑑は市役所や商工会に納品し、市民の目に触れる市内各所に設置していただいた。このプロジェクトは、えびの市商工会から「えびの市で働く方々を紹介する冊子を作ってほしい」という、図鑑制作を依頼された設定になっている。図鑑制作という仕事を体験することもこのプロジェクトの特色であり、生徒の様々な力の育成につながった。



(2) 「対話型キャリア教育プログラム 飯野版ひなた場」

宮崎県教育委員会が開発した「対話型キャリア教育プログラム ひなた場」を飯野版にリメイクし実施した。もともとは大人と児童生徒が人生について語るプログラムであるが、その大人の設定を隣接する県立飯野高等学校の高校生に変え、高校生と中学3年生が人生について語る形に変え、授業を実践した。年齢の近い高校生と人生について語りことができ、大きな成果を上げ、令和4年度より市内全中学校で実施している。



(3) 「中高連携したプログラミング学習」

県立飯野高等学校と連携し、高校でのプログラミングの授業と中学校の授業をつなぐよう、高校の授業の講師を招聘し、ドローンを使ったプログラミング学習を行った。

単にプログラミングを学ぶ授業ではなく、「目標設定する→挑戦してみる→理解する→改善する」という「プログラミング思考」を学ぶ内容となっている。



以上、本校は(1)～(3)の内容をはじめとして、地域と連携した上で、生徒一人一人がこれからの社会で必要となる資質・能力を身に付けながら、自分やふるさとの未来を考えることのできる、コロナ禍においてもできる、地域を巻き込んでできる「キャリア教育」について組織的・系統的に取り組む、えびの市全体の「えびの学」の見直しにも大きく貢献している。

7 今後の課題

開発したプログラムの継続

